審 査 講 評　審査委員長　中川志郎

応募状況：

今回の応募総数は全体で219件、前2回とほぼ同数で応募領域区分、地域区分ともに大きな変動はなかった。ただ、前2回の応募者について、選には洩れたものの高得点をマークしたものがかなりあり、その後の活動の進展などを含め再度の応募を促した結果として、同テーマ或いはその延長線上のテーマで再応募したものが58件にのぼっているのがひとつの特徴といえよう。また、前回、応募の少なかった企業関係にも積極的にPRを行い、学校関係にも働きかけを行った結果若干の増加が見られている。

審査経過：

審査は前回同様「日本水大賞顕彰制度委員会・審査部会」において所定の審査基準に基づいて実施し、各賞の最終決定は「日本水大賞顕彰制度委員会」において行った。審査部会における審査は水に関する科学・文化関係14名の学識経験者が担当し、応募作品と事務局が収集整理した周辺資料をあわせ審査に誤りなきを期した。今回は大臣賞として新たに厚生労働大臣賞が加えられ、また、国際貢献賞が新設されたので、この審査枠組みについて基本的な討議がなされた。

審査結果：

今回「日本水大賞」に輝いたのは東京都小金井市の『雨水浸透事業を通じて推進する市民・水道屋さん・行政のパートナーシップ』である。この事業は雨水浸透マスの普及率日本一の成果もさることながら、この事業を通じて市民、水道屋さん、行政が水問題に積極的に取り組み、長い年月をかけて水環境改善に全市を挙げて努力している姿勢が高い評価を受けたものである。国土交通大臣賞は徳島県の「水を活かしたまちづくり活動」（新町川を守る会）に決まった。イベントを主とした精力的で豊富な内容の活動は都市河川活動のモデル的なものとして評価された。環境大臣賞の「都市河川河口部における汽水域生態系復元に関する活動・研究」（よこはま水辺環境研究会）は、汽水域保全という希少な実践的研究・活動と産・官・民の協力関係が高く評価された。厚生労働大臣賞の「名取川河畔に野鳥の森作り」（太白山ふれあいの森協力会）は、川と森の立体的な捉え方、実現に当たっての先覚者の努力が高い評価を得た。市民活動賞の「山下公園海底清掃大作戦」（海をつくる会）は、ダイバーによる海底の清掃というユニークな活動で、趣味を活動に結びつけた独創性、20年という継続性も高く評価された。奨励賞は学校、企業、個人からそれぞれ1活動、団体2活動が選ばれ、審査部会特別賞に1活動が決定したが、いずれも独創性、継続性、実効性に見るべきものがあり高い評価を得たものである。ただ、国際貢献賞は新設ということもあって応募作品が少なく該当作品無しとなった。今後に期待したい。